

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】令和7年3月26日(2025.3.26)

【公開番号】特開2023-141001(P2023-141001A)
 【公開日】令和5年10月5日(2023.10.5)
 【年通号数】公開公報(特許)2023-188
 【出願番号】特願2022-47112(P2022-47112)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 23/69(2023.01)

H 0 4 N 23/695(2023.01)

G 0 3 B 15/00(2021.01)

G 0 3 B 17/56(2021.01)

【F I】

H 0 4 N 5/232960

H 0 4 N 5/232990

G 0 3 B 15/00 P

G 0 3 B 15/00 Q

G 0 3 B 17/56 A

【手続補正書】

【提出日】令和7年3月17日(2025.3.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

被写体情報記録部210は、被写体検出部209から入力された被写体検出結果に基づいて被写体を登録する。また、被写体情報記録部210は、後述する画像処理装置がユーザに提供する被写体優先度を設定するための手段(ユーザインターフェース等)を通じて通信部211から入力された被写体ごとの名前、誕生日および優先設定情報等を記録する。さらに被写体情報記録部210は、被写体検出部209から入力された被写体検出結果に応じて、その被写体に対応する優先設定情報を制御部207に出力する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

探索シーケンス(ステップS903)は、その詳細は後述するが、指定距離に基づいて探索距離を決定し、パン/チルト角度を逐次変更することで空間範囲としての探索範囲を走査しながら被写体を探索(検出)するシーケンスである。制御部207は、探索シーケンスにより被写体を検出すると、検出した被写体が優先被写体(特定被写体)か非優先被写体かを示す被写体情報を記憶してステップS904に進む。優先被写体は、探索目標被写体としてのヒトの顔の中でも優先して探索および撮像する特定の人物の顔である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

また上記実施例において、優先距離設定ボタン601と距離選択バー602を有する探索距離設定UIについて説明した。これに対して、「遠距離優先ボタン」等の距離選択ボタンを設けたり、距離選択ボタンを操作するごとに指定距離が「遠距離」と「自動」に交互に切り替わったりするようにしてもよい。さらに、指定距離として具体的な数値を入力できるようにしてもよい。また、複数の指定距離を選択できるようにしてもよい。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0066

10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0066】

また、カメラ100と画像処理装置500は、USB接続等による有線接続を介して通信を行ってもよい。さらに、カメラ100と画像処理装置500が一体の装置として構成され、装置内部でバス等を介した通信が行われるようにしてもよい。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0083

20

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0083】

図11に示したパン駆動量とチルト駆動量についてさらに説明する。これらのパン/チルト駆動量は、被写体検出の1サイクルごとの撮像ユニット101のパン/チルト角度の変更量を示す。パン/チルト駆動量が大きすぎると被写体を撮像画角内に捉えられず、検出に失敗する可能性が生ずる。また、パン/チルト駆動量が小さすぎると、被写体の検出逃しはなくなるものの、探索範囲の探索が完了するまでの検出サイクル数が多くなり、探索に長時間を要する。さらに、被写体を撮像画角内に捉えたとしても、被写体が撮像画像の端で切れるとその被写体を精度良く検出できないため、前後の検出サイクルでの撮像画像の一部同士が重複するようにパン/チルト駆動量を設定する必要がある。

30

40

50